

2011年度
(平成23年度)

事業報告書 計算書類等

目次

事業報告書	1
計算書類等	27



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-1 朝日生命恵比寿ビル12階
TEL:03-5424-1121(代) FAX:03-5424-1126
<http://www.unesco.or.jp> E-mail: nfujaj@unesco.or.jp

2011年度
(平成23年度)

事業報告書

目次

I	2011年度事業報告	1
1.	国内における平和構築活動	3
2.	海外における平和構築活動	12
3.	事業資金の拡大・充実	14
II	組織	15
III	会議	19

2011年度の事業報告に当たって

2011年度は日本ユネスコ協会連盟にとって激動の1年間であった。

この年3月11日に発生した東日本大震災を受け、当連盟は日をおかずして「子ども支援募金」による教育復興支援を決定、募金活動に総力を挙げて取り組んだ。未曾有の津波被害と福島第1原発事故という衝撃が走る中、早急な対応と暖かい血の通った行動が求められた。この取り組みは、被災地のユネスコ協会や教育委員会との綿密な連携のもとに進行した。また、これに対する市民の反応は、迅速で善意溢れるものであった。

こうした動きの中で、UNESCO Sports Championの横綱白鵬関、UNESCO Artist For Peaceの二村英仁氏、連盟広報特使の久保純子氏、連盟スペシャルアドバイザーの東儀秀樹氏は精力的に広報、募金活動を行い、かつて無いほど多くの企業・団体・個人の皆さまの共感を得、順調に展開して行った。

地域の自然・文化を未来に継承する未来遺産運動が、今回の大震災を受け、東北地方のお祭りの復興支援に当たったことも、特筆するに価する。

こうした連盟の子ども支援募金活動に対し、UNESCOも前例のない柔軟な対応で接した。ボコバ事務局長は、お見舞いメッセージとともに、連盟の募金口座への義援金を世界に呼びかけた。パリのユネスコ本部で開催された2度のチャリティーコンサートでも、多額の募金が寄せられた。

そして「KIZUNA Message from the world」という新しい試みが、世界中のユネスコスクールに呼びかけられ、被災地の子どもたちへの手紙が仙台ユネスコ協会に多数送られた。仙台ユネスコ協会に寄せられた64ヶ国、約35000通もの心こもったメッセージは、8月の七夕祭で展示され、その後被災地の162校へと送られた。

2012年2月中旬には、ボコバUNESCO事務局長が来日、平泉で世界遺産認定書授与式が行われた。その後、仙台の津波被災校である中野小学校で子どもたちとの交流があり、引き続き仙台ユネスコ協会では東北ブロック代表者の人たちと意見交換が行われた。翌日、東京で開催の東日本大震災チャリティーパーティーでは、ボコバ事務局長が述べた心温まるお見舞いの挨拶が会場に静かな感動を呼び起こした。パーティーの途中行われた松田会長との調印式では、協定書は連盟がUNESCOの資金調達に全面協力することを謳っている。これにより、連盟とUNESCOとの間に新しい関係が始まったといえよう。

本年度は、公益社団法人に衣替えした初年度である。私たちは、公益の実現を目指し、ユネスコ活動を粛々と進めて行く。連盟は、新しいルールに則り、理事会主導のもと、今後とも経営の安定と健全化に努める。理事会に設けた検討チームは、経営改善策を提案し、ユネスコ協会など会員各位の意見を取りまとめて来た。全国に根を張るユネスコ運動が益々発展していく基盤固めの道程である。今後、引き続き具体策を提言し、使命達成のため、全国の会員の皆さまとともに邁進します。

今回の大震災支援事業は、民間ユネスコ運動が災害時の教育復興に果たす役割の重要性と市民の期待感の高まりを証明した。被害者の感謝の言葉も数多く届けられた。平和構築への努力は、こうした地域課題解決への積み重ねに他ならない。ユネスコ活動の推進者及び熱心な協力者の皆さまに深謝致すものであります。

1. 国内における平和構築活動

(1) 普及実践活動

- ① 日本政府 UNESCO 加盟 60 周年記念 第 67 回日本ユネスコ運動全国大会 in 富山 UNESCO の ESD(持続発展教育)推進に歩調を合わせた「持続可能な社会の実現に向けて～真の豊かさとは？地球市民としてできること～」をテーマに開催された。特に、東日本大震災の発生から 2 ヶ月余りしか経っておらず、防災教育も ESD の重要な内容として意識されたことから、そうした視点を含めて基調講演、シンポジウムが行われた。

UNESCO 加盟 60 周年を記念して、UNESCO パリ本部からゲタデュウ・エンギダ事務局次長が参加し、日本のユネスコ活動に敬意を表した。

日程 2011 年 5 月 28 日(土)～29 日(日)

会場 富山国際会議場

主催 日本ユネスコ協会連盟、富山県ユネスコ連絡協議会、富山ユネスコ協会、氷見ユネスコ協会

共催 富山県教育委員会、富山市教育委員会、富山経済同友会

後援 外務省、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、国際連合広報センター、富山県、富山市、氷見市教育委員会、北日本新聞社、富山新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、富山エフエム放送、ケーブルテレビ富山

② ブロック別ユネスコ活動研究会

民間ユネスコ活動振興のため、ユネスコ協会の会員を対象とした研究会を以下の通り実施した。

中部東ブロック・ユネスコ活動研究会	(静岡県浜松市)	2011 年 8 月 20～21 日
四国ブロック・ユネスコ活動研究会	(愛媛県四国中央市)	2011 年 10 月 1～2 日
北海道ブロック・ユネスコ活動研究会	(北海道函館市)	2011 年 10 月 8～9 日
関東ブロック・ユネスコ活動研究会	(千葉県成田市)	2011 年 10 月 15～16 日
九州ブロック・ユネスコ活動研究会	(福岡県久留米市)	2011 年 11 月 12～13 日
中国ブロック・ユネスコ活動研究会	(島根県出雲市)	2012 年 2 月 3 日～4 日
近畿ブロック・ユネスコ活動研究会	(和歌山県紀の川市)	2012 年 2 月 26 日
東北ブロック・ユネスコ活動研究会	(岩手県平泉町)	東日本大震災の影響により中止
中部西ブロック・ユネスコ活動研究会	(三重県伊勢市)	悪天候の影響により中止

③ ユネスコ夏のキャンペーン

7月1日～8月30日の期間、各地のユネスコ協会がユネスコ活動を広報するための各種イベントを行った。

A) 民間ユネスコ運動の日（7月19日）

「子どもたちの未来のために、今できることから」をテーマに、全国で82ユネスコ協会がさまざまな活動を展開した。

B) 「平和の鐘を鳴らそう!」

ユネスコ協会が地域のお寺や教会の鐘を鳴らして、東日本大震災の犠牲者、並びに世界の平和に対して祈りを捧げた。

C) 「平和の鳥 de 募金」

今年度は、「東日本大震災子ども支援募金ユネスコ協会奨学支援奨学金」への協力を呼びかけた。

(2) 青少年活動

① 東日本大震災子ども支援募金

次世代育成のための青年活動の支援を行うとともに、今回発生した東日本大震災の緊急性にかんがみ、岩手・宮城・福島三県の沿岸被災地に対し、ユネスコ協会並びに企業・団体・個人の協力を得て、以下の活動を行った。

1. 学校支援

津波と東京電力福島第一原子力発電所事故により被害を受けた岩手県、宮城県、福島県の140の幼稚園、小・中・高等学校及び2教育委員会に、教材、教育備品、遠足や修学旅行費用などの支援を行った。調達品日については被災地の実情に応じて、学校の希望するものを優先した。また調達は地元の業者を通じて行った。

2. MUFJ-ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャル・グループと共同で、2011年4月に「MUFJ・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を設立。本基金は、震災により遺児・孤児となった小学生から高校生までの子どもたちが心豊かに成長することを願って、奨学金プログラム、心豊かな成長プログラム、花壇再生プログラム、ボランティア活動プログラムを実施する。奨学金プログラムは、遺児・孤児を対象に、高校卒業時まで奨学金（開始時に一時金10万円、月額2万円）を給付する。2011年度は、遺児・孤児1,223名に奨学金を支給した。

3. ユネスコ協会就学支援奨学金

東日本大震災により、子どもの就学が経済的に厳しい家庭に、原則として月額2万円を3年間給付する。2011年度は、宮城県石巻市、気仙沼市、及び岩手県陸前高田市、仙台市、大槌町の5自治体で885人の児童・生徒に対して奨学金を支給した。

4. 学校以外の教育支援

企業の協力を得て、移動図書館車や学童保育施設などの支援を行った。

5. 山田町相撲場建設支援

白鵬関をはじめとする力士会の力士の協力を得て、津波で破壊された山田町相撲場（岩手県下閉伊郡）の再建を支援した。

6. 東日本大震災文化復興支援

企業の協力を得て、宮城県石巻市、気仙沼市、及び岩手県釜石市、大船渡市で、被災地の祭りの復興を支援した。

7. 絆メッセージ・フロム・ザ・ワールド

UNESCO 主催で、世界中の学校の子どもから被災した子どもたちに、連帯の証としてメッセージを届ける「絆メッセージ・フロム・ザ・ワールド」を、仙台ユネスコ協会と学生部の協力を得て実施した。64 カ国から計 3 万 5 千通を超えるメッセージが寄せられて、仙台市内で展示を行った後、162 の被災校にメッセージを届けた。

8. 企業等への広報・協力依頼

ユネスコ協会就学支援奨学金への協力を呼びかけるコマーシャル映像を制作し、H本ケーブルテレビ連盟、渋谷ビジョンの協力を得て放映した。2012 年 3 月 11 日から 21 日にかけて朝日新聞、読売新聞、東京新聞、日本経済新聞、日経 MJ の各紙にユネスコ協会就学支援奨学金への協力を呼びかける広告を掲載した。また 2 月 14 日には UNESCO のボコバ事務局長の来日に伴い、東京でチャリティイベントを実施した。

② スタディツアー

A) 平成 23 年度内閣府青年国際交流事業

内閣府が行う青年交流事業にユネスコ協会の青年会員を推薦した。

B) International Youth Camp (IYC) 派遣事業

2011 年夏、韓国・釜山など 5 ヶ所で韓国ユネスコ国内委員会が主催で開催する国際ワークキャンプにユネスコ協会の青年会員 1 名を派遣した。

C) 高校生・教員スタディツアー

高校生 4 名及び学校教員 3 名、理事 1 名がカンボジアの寺子屋の現場を訪問し、寺子屋運動、世界遺産やカンボジアの歴史・文化について学ぶ機会を得た。今後、参加者が地元でユネスコ運動を活性化していくための経験となった。

日程 2011 年 3 月 28 日～4 月 3 日

場所 カンボジア・シエムリアップ州

③ ユネスコスクールの普及活動（通年）

文部科学省の「平成 23 年度日本/ユネスコ・パートナーシップ事業」を受託し、都道府県におけるユネスコスクール普及を目的とし、当該都道府県及び政令市教育委員会とユネスコ連絡協議会との共催で教員対象の研修会を開催した。また、本研修会に合わせて冊子を作成し、配布した。

実施日	2011 年 8 月 11 日（木）（広島県）	参加者 243 名
	2011 年 10 月 26 日（水）（愛知県）	参加者 237 名
	2012 年 1 月 19 日（木）（鹿児島県）	参加者 95 名
	2012 年 1 月 27 日（金）（香川県）	参加者 120 名

④ ユネスコ学校プロジェクト（通年）

ユネスコスクールを中心に、プロジェクト型学習を提供した。

- A) 三菱東京 UFJ 銀行の協力により、ユネスコスクール新規登録校への「プレート寄贈」、「第 2 回 ESD 国際交流プログラム」、及び「第 3 期ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト」を実施。「第 2 回 ESD 国際交流プログラム」では、2012 年 3 月 24 日から 31 日までユネスコスクール加盟校の高校生 10 名と教員 1 名がドイツのユネスコスクール、UNESCO パリ本部を訪問した。「第 3 期ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト」ではユネスコスクール 67 校に対し、活動助成を行った。
- B) MSD 株式会社（旧萬有製薬）の協力により、小学校 6 年生を対象に「サイエンススクール」を開始し、以下 3 校で出前授業を行った。

実施日	2011 年 8 月 26 日	東京都目黒区立五本木小学校
	2011 年 10 月 6 日、13 日	千葉県市川市立鶴指小学校
	2011 年 12 月 14 日	東京都千代田区立お茶の水小学校

C) 「ユネスコ寺子屋プロジェクト」（リーフレットと研修会）

45 校・2433 名の児童/生徒が「ユネスコ世界寺子屋運動」について学び、コンピューターを使用して、運動を支援するためのリーフレット制作に取り組んだ。2011 年 11 月 5、6 日には新規参加校の教員ら 9 名を対象に研修会を開催した。2012 年 2～3 月にリーフレットコンテストを実施し、福岡県立城南高等学校の生徒による作品が「日本ユネスコ協会連盟賞」に選ばれ、2012 年度書きそんじハガキキャンペーン用のリーフレットの素案として採用された。2012 年 3 月には参加校から 3 名の教員がカンボジアスタディツアーに参加した。

⑤ 教員研修会

2011 年 9 月 24 日～25 日、文京学院大学（東京都）において、全国の小・中・高等学校及び教育委員会関係者 82 名を対象に教員研修会を実施。ESD 教材「守ろう地球のたからもの（豊かな世界遺産編）」の活用をテーマとし、同教材の学校現場での普及促進をはかった。

⑥ 第 43 回ユネスコ子どもキャンプ

主催 日本ユネスコ協会連盟、奈良県ユネスコ協会連絡協議会、奈良ユネスコ協会
2011 年 8 月 1 日～8 月 4 日、奈良県立野外活動センターで小学 4 年生から中学 3 年生 100 名とユネスコ協会の青年会員が参加し、第 43 回ユネスコ子どもキャンプを実施。集団生活とワークを通じて世界遺産、自然、ユネスコへの理解を深めた。

⑦ 「守ろう地球のたからもの」(通年)

協力：三菱UFJフィナンシャル・グループ、及び三菱UFJ環境財団

国連「持続可能な開発のための教育の10年(UNDESD)」の理念に基づき、持続発展教育(ESD)を推進することを目的に以下の事業を行った。

- A) ESD教材「豊かな自然編」「豊かな世界遺産編」を授業での実践を希望する学校へ寄贈した。
- B) 世界遺産「白神山」周辺地域の国有林伐採跡地に2万本を植樹した。2011年6月4日、18日には三菱UFJフィナンシャル・グループ社員が植樹作業にボランティア参加した。
- C) 第36回「みどりの絵コンクール」を三菱環境財団との共催で実施。25,699点の応募作品の中から、最優秀賞9点、優秀賞36点、入選393点が選ばれた。2011年12月10日、東京都千代田区で最優秀賞の表彰式を実施した。
- D) 2011年8月5日～7日、青森県で子ども自然体験教室を開催し、第35回(2010年度)みどりの絵コンクール受賞者とその家族を招待した。

⑧ 第10回三菱アジア子供絵日記フェスタの共催(2010年～2011年)(通年)

主催 三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)、
日本ユネスコ協会連盟

国際識字年を記念し、1990年から、相互の文化や生活に触れ、理解を深めることを目的に開催。アジア24の国・地域の子どもたちから77,338作品の応募があった。2011年夏に予定されていた韓国・ソウルでの国際授賞式は中止。10月9日に日本国内受賞者を対象に東京で国内授賞式を行った。

(3) 組織の拡大とユネスコ活動の充実

- ① 地域ユネスコ活動の一層の振興をはかるため、ユネスコ協会が企画する青少年事業を中心としたユネスコ活動69件を助成した。
- ② 2011年5月27日に開催された第62回通常総会でユネスコ協会活動振興のための顕彰を行った。
- ③ 「構成団体会員に関する規程」に基づき、都道府県内単位ユネスコ協会の活動振興のため都道府県のユネスコ連絡協議会に助成金を交付した。
- ④ ユネスコ協会設立の勧誘と支援
新たに以下のユネスコ協会が設立された。

南砺ユネスコ協会	第476回理事会(2011年5月27日)承認
府中ユネスコ協会	第478回理事会(2011年7月30日)承認
玉川大学ユネスコクラブ	第478回理事会(2011年7月30日)承認
彦根ユネスコ協会	第480回理事会(2012年1月14日)承認
平和の文化東京ユネスコクラブ	第480回理事会(2012年1月14日)承認
ウヰズみえユネスコクラブ	第481回理事会(2012年3月10日)承認

⑤ ユネスコ協会便の発送

ユネスコ協会、日ユ協連役員に対してユネスコ協会便を年 12 回発送した。

⑥ 「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展

ユネスコ協会が実施する「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展に日本ユネスコ協会連盟会長賞を授与した。

⑦ ユネスコ運動推進員研修

ユネスコ協会の次代を担う会員を対象に、運動を市民に伝え、広めていくことのできる人材の育成を目的に開始したユネスコ運動推進員の第 2 期生が 2011 年 11 月に任期が満了した。

(4) 世界遺産・地域遺産活動

① 世界遺産年報の発行

世界遺産の最新情報を盛り込んだ「世界遺産年報 2012 No. 17」を財団法人日本宝くじ協会の助成を得て発行し、国公立図書館、大学附属図書館、教育委員会等へ寄贈した。

② 植樹プロジェクト（青森県）

2011 年 6 月、世界遺産「白神山地」周辺地域の西日屋村にて植樹活動を行った。

③ 未来遺産運動（通年）

地域の文化・自然遺産を未来へ伝えるために、次の事業を行った。なお今年度は 3 月 11 日の東日本大震災により甚大な被害を受けた地域に伝承する無形文化を復興する「未来遺産運動 東日本大震災文化復興支援“東北のお祭りを救おう”」を実施した。

A) プロジェクト未来遺産

特別協力企業：東日本旅客鉄道株式会社、レクサス

事業協力：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

2011 年 4 月 1 日～8 月 31 日の公募期間に 22 都道府県から 33 プロジェクトを受付。プロジェクト未来遺産選考のために西村幸夫東京大学教授を委員長とする未来遺産委員会を設置。未来遺産委員会の各分野の専門家によるワーキング・グループを結成、評価項目や選考方法を決定。書類選考後、10 月～11 月にワーキング・グループメンバーを中心に現地調査し、未来遺産委員会提出用の調査報告書を作成した。12 月 19 日、未来遺産委員会を開催し、2011 年度第 3 回「プロジェクト未来遺産」として 10 団体を選考し、登録を決定した。

<2011 年度第 3 回「プロジェクト未来遺産 2011」 ※プロジェクト名／団体名>

1. 「稲生川開削と三本木原開拓の志を活かし、共創郷土の伝統を未来に」(青森県) / 「太素の水」保全と活用連合協議会
2. 「渡良瀬川源流の森再生プロジェクト—足尾銅山の荒廃地に植樹—」(栃木県) / 特定非営利活動法人足尾に緑を育てる会
3. 「現代の癒し「布橋灌頂会（ぬのぼしかんじょうえ）」を永遠に語り継ぐために！」(富山県) / 布橋灌頂会実行委員会
4. 「伝統行事を支えていく未来の担い手育成事業」(三重県) / 春を呼ぶ会
5. 「ニッポンバラタナゴを守る伝統的な溜池浄化法“ドビ流し”の継承」(大阪府) / NPO 法人ニッポンバラタナゴ高安研究会

6. 「天神崎（てんじんざき）の自然の維持と環境教育の推進」（和歌山県）/ 公益財団法人天神崎の自然を大切にする会
7. 「未来につなごう！尾道・坂の町再生プロジェクト」（広島県）/ NPO 法人 尾道空き家再生プロジェクト
8. 「未来に遺す「生きた鉄道博物館」～100年レイル肥薩線への情熱～」(熊本県) / 人吉鉄道観光案内人会
9. 「千年の時を刻む荘園村落遺跡「田染荘（たしぶのしょう）小崎」」（大分県）/ 荘園の里推進委員会
10. 「生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟保全活動」（大分県）/ NPO 法人 水辺に遊ぶ会

B) 私のまちのたからものコンテスト（スライドショー）

全国の小・中・高等学校を対象に、児童・生徒の郷土愛を育むことを目的とし、デジタル写真にナレーションや音楽をつけたスライドショー作品を募集。2011年6月1日～2012年1月13日の公募期間に応募があった42作品から優秀作品3点を選出、2012年3月26日、東京都千代田区にて表彰式を行った。

1. 日本ユネスコ協会連盟賞（最優秀賞）
鳥取県米子市立淀江中学校 2年生4名 『よいとまかせ』
2. D-project 賞（優秀賞）
富山県氷見市立朝日丘小学校 4年生23名 『俳句でつづる氷見の宝』
3. あいおいニッセイ同和損害保険株式会社賞（優秀賞）
岡山県立矢掛高等学校 2年生2名 『柿干せば 人が集まる 山ノ上』

C) 未来遺産運動 東日本大震災文化復興支援 “東北のお祭りを救おう”

地域に伝承する無形文化を復興することを目的に、東日本大震災の甚大な被害に対し、以下の活動を支援した。

1. 宮城県石巻市 “雄勝法印神楽” への支援
2. 岩手県釜石市 “櫻舞太鼓” への支援
3. 被災した学校での地域芸能継続のための支援
4. 宮城県石巻市雄勝小学校 神楽クラブへの支援
5. 岩手県気仙沼市立浦島小学校 小々汐太鼓への支援
6. 岩手県大船渡市立越喜来小学校 浦浜念仏剣舞 への支援

④ 国内世界遺産啓発・保全活動

日本国内における世界遺産の保全活動に関する協力の可能性について現場のニーズを調査した。

(5) 海外との連携

- ① アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟 (AFUCA) の活動振興 (通年)
- A) AFUCA 会長国として域内ユネスコ協会・クラブ活動の振興に協力した。
 - B) 2011年11月18～20日に開催された臨時AFUCA執行委員会に野口昇理事長、内田眞朗専務理事等が出席した。
- ② 世界ユネスコ協会クラブ連盟 (WFUCA) への協力 (通年)
- A) 2011年8月19日～21日にベトナム・ハノイで開催された、第8回世界大会へ野口昇理事長、大瀧太市監事等が出席した。野口理事長は会長選挙に際し、選挙管理委員長を務めた。
 - B) 2011年8月ベトナム・ハノイで開催された第8回世界ユネスコ協会クラブ連盟世界大会にあわせ、ベトナム・スタディツアーを2011年8月18～24日に実施、35名が参加した。
- ③ UNESCOとの連携
- A) UNESCO 芸術賞基金の管理・運営、及び UNESCO パリ本部と連絡業務を行った。
 - B) 2011年度 UNESCO 東アジア子ども芸術祭は、開催国モンゴルの都合により中止となった。
 - C) その他
 - 1. 2012年2月15日、UNESCO ボコバ事務局長の来日時に、松田会長との間で、日本国内における UNESCO への資金調達に関する協定締結を締結した。
 - 2. 心に笑顔プロジェクト
UNESCO の協力依頼に応え、ドイツの化学メーカーBASF の寄附による被災地での教育復興事業「心に笑顔プロジェクト」を受託。気仙沼市を中心とした事業の企画・立案を行った。
 - 3. ハイチ教育復興支援に寄せられた寄附金を全額 UNESCO に送金した。

(6) 普及広報活動

- ① 広報活動
- 民間ユネスコ活動の普及・広報を目的として以下の活動を行った。
- A) 機関誌「ユネスコ」の発行 (季刊、年4回発行)
会員機関誌「ユネスコ」を以下の通り発行し、会員間の情報交流を促進した。

機関誌「ユネスコ2011年5月臨時号」	2011年5月1日発行
機関誌「ユネスコ2011年7月号 vol.1133」	2011年7月1日発行
機関誌「ユネスコ2011年10月号 vol.1134」	2011年10月1日発行
機関誌「ユネスコ2012年1月号 vol.1135」	2012年1月1日発行
 - B) ビデオやパネルの貸出
東日本大震災対応に伴い、6月までパネル等の貸出事業を一時休止した。再開後はビデオ (動画) の貸出を中止し、動画共有サイト YouTube にて無料公開する形態に変更した。パネルの貸出は借主に送料負担を求めるなど内容を一部変更して実施した。なお、ビデオと一部のパネルは希望するユネスコ協会に抽選で寄贈し、パネル貸出事業は3月末をもって終了した。

c) パンフレットの配布（事業パンフレット等）

ユネスコ活動への賛同者を増やすために、募金や寄附に関する情報を分かりやすく伝えるパンフレット等を制作した。自動引落し募金者の増大を図り、募金システムの改善とクレジットカード決済による定額募金の増加をめざした。

d) 広報特使との協働

東儀秀樹（日本ユネスコ協会連盟スペシャルアドバイザー）、久保純子（日本ユネスコ協会連盟広報特使まなびゲーター）、わさお（日本ユネスコ協会連盟世界遺産活動特別大使）、二村英仁（UNESCO アーティストフォーピース）、横綱白鵬関（UNESCO スポーツチャンピオン）の各氏に協力を得て、東日本大震災子ども支援募金で街頭募金、被災地訪問などユネスコ運動について広報協力いただいた。

e) 東日本大震災子ども支援募金、書きそんじハガキを呼びかけるコマーシャルを制作し、公共枠で放映した。また、読売新聞（3月11日）、朝日新聞（3月12、13、15日）、日本経済新聞（3月12日）、日経MJ（3月12日）、東京新聞（3月21日）紙上に「ユネスコ協会就学支援 奨学金」への協力を呼びかける新聞広告を掲載した。

② WEB 広報活動

A) 日ユ協連ホームページの全面改定及び管理

認知度の向上及び募金拡大をめざして、日ユ協連ホームページを全面改定した。アクセス数が改定前に比べ、2倍に伸びた。

B) メールマガジン「ユネスコ情報マガジン」の発行

民間ユネスコ運動の普及広報のためユネスコ情報メールマガジンを通巻155号～168号まで計14回発行した。

C) WEB 募金の充実

ホームページからの募金増加を図るために、インターネット募金（クレジットカード決済）システムを改訂。クレジットカード決済で、都度決済、及び継続決済（「月1・いいことプログラム」）が可能になった。

③ 都市対抗野球大会

2011年11月1日に京セラドーム大阪（大阪府）で開催された第82回都市対抗野球大会で優勝したJR東日本にスポーツを通じて平和のメッセージを発信する目的で日本ユネスコ協会連盟賞を授与した。

2. 海外における平和構築活動

(1) 世界寺子屋支援活動（通年）

基本的人権としての基礎教育を受けることができない人々のために、世界寺子屋運動を通じた教育支援活動を行った。“すべての人に教育を（EFA）”の目標達成にはまだまだ困難が伴うが、誰もが読み書きできるようになって、持続可能な地域の発展と平和な社会づくりに参画できる人材になることを願って活動を国内外で展開した。世界寺子屋運動広報特使・久保純子氏や株式会社電通の多大なる協力を得て、国内の募金広報活動を積極的に行った。

① アジア5ヵ国での事業実施

A) カンボジア（アンコール寺子屋プロジェクト）

シエムリアップ州の中心地にある日ユ協連カンボジア事務所を拠点に州内8郡9地域にて寺子屋活動を支援した。寺子屋では就学前児童を対象にした幼稚園クラスや図書活動、成人を対象とした識字教育及び技術訓練及び収入向上プログラムを実施した。また、シエムリアップ州内にプロジェクトを通じて8、9軒目となる寺子屋を建設。研修を通じて寺子屋運営を担う地域リーダーの育成を行った。

B) アフガニスタン（アフガニスタン寺子屋プロジェクト）

日ユ協連カブール事務所を拠点とし、アフガニスタン教育省識字局と連携して、カブール県、パルワン県、パーミヤン県に設置された13の寺子屋を通じて、主に成人を対象とした識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。タリバン時代、女子、女性への教育を禁じていたことを受け、女性の識字率がいまだに低い農村地域では、民家型識字教室を展開し、約2000人に学びの機会をもたらした。

C) ネパール（ランビニ寺子屋プロジェクト）

世界遺産「ランビニ」周辺の12村とカトマンズ近郊の4地域で識字教育・小学校クラス、技術訓練、収入向上事業を実施した。小学校では、カーストの低い子どもや女子など700人以上が、寺子屋や民家で実施された識字クラスでは、約2000人が基礎的な文字の読み書きを学ぶことができた。さらに、寺子屋運営委員、政府のノンフォーマル教育職員、地域住民への人材育成はのべ2000人を超えた。

D) インド（ゴカック寺子屋プロジェクト）

カルナータカ州ゴカック郡でベルガウム農村総合開発協会と協力して、45村で識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。女性の自助グループ（セルフヘルプグループ）メンバーのための2ヶ月間の短期識字クラスでは、約900人が文字を学び、大部分の生徒が最終試験に合格した。2012年7月の支援終了に向け、寺子屋の建物の補修の資金や運営資金を村議会や住民から集め、多い寺子屋では数十万円が集まった。プロジェクト終了後の村人による運営体制の構築が進んだ。

E) ラオス（ルアンパバン寺子屋プロジェクト）

ラオス教育省と連携して、国内の最貧困地域ルアンパバン県の4郡12地域で、成人を対象とした識字教育、小口融資活動、織物技術や畜産業を通じた収入向上プログラムを実施した。また、寺子屋を運営する地域リーダーの育成研修と併せて、寺子屋活動への指導、監督を行う地域の教育担当官に対する研修も行った。

F) 世界寺子屋運動研修活動（ユネスコ世界寺子屋運動における CLC を通したノンフォーマル教育政策の拡充に向けた政府関係者招聘事業）

文部科学省の平成 23 年度政府開発援助ユネスコ活動助成費補助金により、アフガニスタン、カンボジア、ラオス、ネパールから計 12 名の政府職員やプロジェクト担当者を招聘し、公民館を訪問、インドネシア、UNESCO、国立教育政策研究所の専門家による講義やワークショップを通じて、各国の問題点の共有や課題解決のための行動計画を作成した。

② 新規プロジェクト調査

新規プロジェクトの支援内容とその実現可能性に関する関係者ヒアリングを実施した。バングラデシュ、ブータンなどノンフォーマル教育政策、経済状況について調査した。

③ NHK 「H木賞・日本ユネスコ協会連盟賞」の授与

NHK 主催の「日本賞」教育番組国際コンクールで、途上国の識字教育を促進する優れた番組企画に対し、「日本ユネスコ協会連盟賞」を授与した。

④ 事業実施のための募金広報活動

A) 募金広報印刷物の制作

B) 書きそんじハガキ回収キャンペーン（2011 年 11 月～2012 年 3 月）

2012 年 11 月から始まったキャンペーンでは、過去最多の 123 ユネスコ協会が参加した。新たにユネスコスクールに参加を呼びかけ、11 校が参加。また、回収 BOX やポスターを刷新したほか、広報特使まなびゲーター・久保純子さんのコマーシャルを活用し、効果をあげた。

C) 募金広報ビデオ、パネルの制作

広報特使まなびゲーター久保純子氏のご協力で書きそんじはがき協力コマーシャルを作成し、街頭テレビジョン等で多数放映した。

D) みなさまからの募金による活動レポート 2011

世界寺子屋運動、「一杯のスプーン」支援活動、世界遺産・地域遺産活動等の募金による活動に加え、東日本大震災子ども支援募金の支援活動も掲載した報告書を発行し、募金者等に送付した。

E) 広報特使まなびゲーター久保純子氏の協力で、世界寺子屋運動の広報を強化した。

(2) 「一杯のスプーン」支援活動（通年）

世界寺子屋運動の支援先と連携しながら、無償医療活動を支援した。

① ネパール

世界寺子屋運動の支援地ルンビニの 12 村において、巡回医療活動および栄養補助、食品配布をおこなった。

② アフガニスタン

カブール市内の JTFF クリニックが実施する医療活動への支援を行った。またカブール市内の世界寺子屋運動実施地域に向け、巡回クリニックを実施した。

(3) 世界遺産・地域遺産活動（通年）

- ① フィリピン・コリディエーラの棚田群 イフガオの棚田文化継承プロジェクト
イフガオ州で棚田を保存するための伝統的知識を次世代の若者に引き継ぐことを目的とした事業を行った。
- ② カンボジアの世界遺産「アンコール」（アンコール・文化教育プロジェクト）
アプサラ機構、州教育局と連携し、シェムリアップ州の小学校5・6年生に対する塗り絵教材通じた伝統文化継承事業を行った。
- ③ アフガニスタンの世界遺産「バーミヤン渓谷の文化的景観と古代遺跡群」（バーミヤン教育文化センタープロジェクト）
治安状況の悪化のため、実施できなかった。
- ④ 世界遺産広報事業
さまざまな企業・団体・研究機関等と協力しながら、世界遺産条約の趣旨を正確に広報するための広報活動を行った。

3. 事業資金の拡大・充実

(1) 財務の強化

- ① 募金総額の増加
インターネット募金の改定による月1いいことプログラムの推進や、郵便振込用紙付き東日本大震災子ども支援募金チラシの配布や機関誌封入など、募金呼びかけのツール改定を行い、募金拡大に努めた。また、新しい可能性として、旅行会社との提携による寺子屋スタディツアー事業、遺贈募金拡大のための調査活動等を行った。
- ② 維持会員及び個人会員の増加
維持会員、個人会員の勧誘を実施。
- ③ 「月1・いいことプログラム」への協力者を増加するための各種施策実施。
東日本大震災1周年に合わせ、新聞広告掲載により協力者への働きかけを強めた。
- ④ 3カ年計画の策定
理事会に財務改善チームを設置し、集中的な審議をして事業財務改善のためのたたき台を作成した。それを元に、各ブロックで代表者会議を開催して意見を求め、機関誌ユネスコでは全会員に対してアンケートによる意見を求めた。

(2) 企業とのタイアップ事業の推進

社会貢献事業の実施と財源確保を同時に実現できる企業タイアップを実施。本年は、東日本大震災子ども支援募金に新規企業が参加。また、震災支援をきっかけとして、他の事業への企画紹介など、協力の拡大に努めた。また、企業による支援方法が理解されやすいよう、ホームページ内の企業ページを改定した。

Ⅱ 組織

1. 理事（28）（五十音順）（* 代表理事）

会長	松田昌士*	（東日本旅客鉄道株式会社顧問）	非常勤<維持>
副会長	加藤玲子	（特定非営利活動法人目黒ユネスコ協会名誉会長）	非常勤<構成>
理事長	野口 昇*	（文京学院大学副学長・教授）	非常勤<会推>
専務理事	内田眞朝*	（公益社団法人日本ユネスコ協会連盟事務局長）	常勤 <個人>
理事	秋田 実	（三菱商事株式会社総務部環境・CSR推進部部長）	非常勤<維持>
	石川 航	（岐阜ユネスコ協会青年部）	非常勤<青年>
	石田喬也	（鎌倉ユネスコ協会理事長）	非常勤<構成>
	北川建次	（広島ユネスコ協会会長）	非常勤<構成>
	太田原弘	（盛岡ユネスコ協会副会長）	非常勤<構成>
	岡田 茂	（日本ユネスコ協会連盟元事務局長）	非常勤<個人>
	小出寛治	（NTTファイナンス株式会社顧問）	非常勤<会推>
	鈴木佑司	（法政大学教授）	非常勤<個人>
	須田洋光	（高崎ユネスコ協会会長）	非常勤<構成>
	高見裕一	（地球コーポレーション株式会社代表取締役）	非常勤<会推>
	田中弘允	（鹿児島ユネスコ協会会長）	非常勤<構成>
	西村幸夫	（東京大学大学院教授）	非常勤<個人>
	二瓶和敏	（二瓶総合法律事務所弁護士）	非常勤<個人>
	野田智義	（特定非営利活動法人アイ・エス・エル理事長）	非常勤<会推>
	野本武男	（松山ユネスコ協会会長）	非常勤<構成>
	樋口達夫	（大塚ホールディングス株式会社代表取締役社長兼CEO）	非常勤<維持>
	廣瀬忠子	（芦屋ユネスコ協会会長）	非常勤<構成>
	藤崎壮吾	（富通株式会社がブリックレーションズ本部CSR推進部長）	非常勤<会推>
	松浦 慎	（奈良ユネスコ協会青年部代表）	非常勤<青年>
	松波孝之	（富山ユネスコ協会会長）	非常勤<構成>
	溝畑靖雄	（一般社団法人日本の伝統を守る会常務理事）	非常勤<賛助>
	盛 和春	（株式会社電通プロジェクト・プロデュース社シニア・プロデューサー）	非常勤<維持>
	横山 清	（札幌ユネスコ協会会長）	非常勤<構成>
	米田伸次	（帝京大学沖永国際教育研究所客員教授）	非常勤<個人>

（注） <構成>：構成団体会員代表、<賛助>：賛助団体会員代表、<個人>：個人会員代表、
<維持>：維持会員代表、<青年>：青年代表、<会推>：会長推薦

2. 監事（3）

大瀧太市	（朝日実業株式会社元社長）	非常勤
鈴木幹夫	（日本放送協会元理事）	非常勤
松代隆子	（財団法人吉田秀雄記念事業財団専務理事）	非常勤

3. 顧問 (8)

糟谷 勝 児島 仁 堤 清二 濱中昭一郎 榎原 義春
 松浦晃一郎 村井 了 村田 昌志

4. 評議員数

会員種別	2011年度-2012年度	定員
構成団体会員	86人	100人以内
(うち青年代表)	(4人)	9人以内
国内委員会委員	9人	9人以内
賛助団体会員	4人	5人以内
個人会員	30人	30人以内
維持会員	15人	15人以内
計	144人	150人以内

5. 会員数

会員種別	2010年度末	減	増	2011年度末
構成団体会員	273	4	7	276
賛助団体会員	16	0	4	20
個人・終身個人会員	287	6	4	285
維持会員	172	15	2	159
計	748	25	17	740

6. 会員の異動

構成団体会員

<入会> 7

南砺ユネスコ協会 (富山県) 2011年5月27日第476回理事会承認
 全国的青年連絡組織 (東京都)、府中ユネスコ協会 (広島県)、玉川大学ユネスコクラブ (東京都)
 2011年7月30日第478回理事会承認
 彦根ユネスコ協会 (滋賀県)、平和の文化東京ユネスコクラブ (東京都)
 2012年1月14日480回理事会承認
 ウィズみえユネスコクラブ (三重県) 2012年3月10日第481回理事会承認

<退会> 4

桑名ユネスコ協会、いいたてユネスコ協会、富山県青年ユネスコ連絡協議会、光ユネスコ協会
 青年部 2011年5月27日第476回理事会承認

<休会退会> 6 (注: 構成団体会員数に含まず)

大間々ユネスコ協会、渋川ユネスコ協会、ユネスコみどりの会、熱海ユネスコ協会、屋
 久島ユネスコ協会 2011年5月27日第476回理事会承認
 西都ユネスコ協会 2011年7月30日第478回理事会承認

<名称変更>

茨城県西地方ユネスコ協会（旧名称 筑西ユネスコ協会）

2012年3月10日第481回理事会承認

維持会員

<入会> 2

サービスツーリズム産業労働組合連合会、株式会社ピーオーディ

2011年7月30日第478回理事会承認

<退会> 15

株式会社イー・エス・シー、東京電力株式会社、富士物流株式会社、シルバー精工株式会社、オリエント時計株式会社、鹿島石油株式会社

2011年5月27日第476回理事会承認

ユーシーカード株式会社、富士通エレクトロニクス株式会社、富士通テレコムネットワーク株式会社、望月印刷株式会社、肥後銀行株式会社、大東印刷工業株式会社、株式会社クロサワ

2011年10月21日479回理事会承認

日米文化交流協会、有限会社データワールド 2012年1月14日480回理事会承認

賛助団体会員

<入会> 4

一般社団法人日本の伝統を守る会

2011年5月27日第476回理事会承認

社団法人日本空手協会、財団法人日本余暇文化振興会、国立大学法人三重大学ユネスコスクール委員会

2012年1月14日480回理事会承認

<退会> なし

個人会員

<入会> 4

三谷幸正

2011年5月27日第476回理事会承認

間瀬雅晴

2012年1月14日480回理事会承認

峯弘、吉川長太

2012年3月10日第481回理事会承認

<退会> 6

渡辺由利子、出島重雄、吉原泰助

2011年5月27日第476回理事会承認

池谷貞夫

2011年10月21日479回理事会承認

鶴飼質、工藤父母道

2012年1月14日480回理事会承認

7. 地域的なユネスコ活動の領域を代表する日本ユネスコ国内委員会委員(日本ユネスコ協会連盟関係) (2012年3月31日現在)

北海道	秋庭 一憲	(北海道ユネスコ連絡協議会事務局長)
東北	菅原 展子	(秋田ユネスコ協会会長)
関東・甲信越	宇佐見 恵子	(水戸ユネスコ協会会長)
	森井 曠雄	(鎌倉ユネスコ協会理事)
中部	小竹三恵子	(ふくいユネスコ協会副会長)
近畿	堀川 一晃	(エリーニ・ユネスコ協会会長)
中国	岡崎 天隆	(岩国ユネスコ協会会長)
四国	青野 正	(新居浜ユネスコ協会会長)
九州	武藤 博丈	(長崎ユネスコ協会会長)
全国的連合組織	西村 幸夫	(日本ユネスコ協会連盟理事、東京大学副学長)
全国的連合組織	二瓶 和敏	(日本ユネスコ協会連盟理事、弁護士)
全国的連合組織	見上 一幸	(宮城教育大学副学長)

Ⅲ 会 議

1. 総会

第62回定時総会

日 時 2011年5月27日(金) 14:30～16:30
場 所 富山県・富山国際会議場 2F 201-202室
議 長 会長 松田昌士
出席者 構成団体会員 39名
維持会員 3名
個人会員 26名
賛助団体会員 1名
出席者計 68名
委任状 394名

議 題

1. 議事録署名人の選任について
2. 評議員、監事、理事の選出について
3. 2010年度事業報告書(案)および2010年度収支計算書及び財務諸表(案)について
4. 2011年度事業計画書および2011年度収支予算書について
5. その他

2. 理事会

第476回理事会

日 時 2011年5月27日(金) 13:15～14:00
場 所 富山県・富山国際会議場 2F 204室
議 長 会長 松田 昌士
出席者 13名 (理事総数22名)

議 題 I. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 2010年度事業報告書(案)および2010年度収支計算書(案)
3. 東日本大震災子ども支援募金について
4. 2011・2012年度 役員および評議員「選考委員会」について
5. 会員提出議案について

Ⅲ. 報告事項

1. 後援・共催事業
2. その他

第477回理事会

日 時 2011年5月27日（金）14：15～14：45

場 所 富山県・富山国際会議場 2F 204室

議 長 会長 松田 昌士

出席者 18名（理事総数28名）

議 題 I. 協議事項

1. 会長の互選について
2. 副会長、理事長、専務理事の選任について

第478回理事会

日 時 2011年7月30日（土）15：45～17：00

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B会議室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 23名（理事総数28名）

議 題 I. 第476回理事会議事要録の承認及び第477回理事会議事要録の確認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 東日本大震災子ども支援募金の活動報告と今後の支援方針について
3. 2011年度4月から7月までの事業報告及び今後の日程（案）
4. その他

III. 報告事項

1. 後援・共催事業
2. その他

第479回理事会

日 時 2011年10月21日（土）15：00～17：30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B会議室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 24名（理事総数28名）

議 題 I. 第478回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会
2. 東日本大震災子ども支援募金の進捗報告と今後の支援について
3. 事業改善3カ年計画（案）について
4. 個人会員の入会手続きについて
5. 経理規程の改正（案）について
6. 全国的青年連絡組織の事業計画と予算について
7. ユネスコ・ユースセミナーについて
8. その他

III. 報告事項

1. 新定款のポイントについて
2. 第8回 WFUCA 世界大会について

3. ユネスコ・パリ本部との提携事業について
4. 後援・共催事業
5. その他

第480回理事会

日 時 2012年1月14日（土）13：15～15：00

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B会議室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 名（理事総数28名）

議 題 I. 第479回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 2011年度8月から12月までの事業報告および今後の日程(案)
3. ユネスコ協会就学支援奨学金 運営委員会の設立について
4. 事業財務改善3カ年計画(案)について
 - ① 2012年度事業計画及び予算の骨子(案)
 - ② 青年企画(ユネスコ・ユースセミナー)について
5. その他

III. 報告事項

1. 後援・共催事業
2. その他

第481回理事会

日 時 2012年3月10日（土）14：00～17：00

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（B会議室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者 21名（理事総数28名）

議 題 I. 第480回理事会議事要録の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 2012年度1月から3月までの事業報告および今後の日程(案)について
3. 東日本大震災子ども支援募金について
4. UNESCOとの協定に基づく事業連携
5. 経営改善5カ年構想(案)について
6. 2012年度事業計画書及び収支予算書(案)
7. その他

III. 報告事項

1. 後援・共催事業
2. その他

3. 評議員会

第24回評議員会

日 時 2011年5月23日（土）13：15～15：30
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A会議室）
議 長 会長 松田 昌士
出席者 構成団体会員 43名
維持会員 3名
個人会員 9名
賛助団体会員 2名
出席者計 57名
委任状 51通

議 題

1. 第23回評議員会議事要録の承認
2. 2011年度事業計画書・収支予算書
3. 2011年1月から3月までの事業報告書及び今後の日程（案）
4. 東日本大震災子ども支援募金について
5. その他

第25回評議員会

日 時 2011年7月30日（土）13：15～15：00
場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A会議室）
議 長 会長 松田 昌士
出席者 構成団体会員 53名
維持会員 5名
個人会員 17名
賛助団体会員 1名
青年代表 3名
理事 1名
ユネスコ国内委員 3名
出席者計 82名
委任状 42通

議 題

1. 第24回評議員会議事要録の承認
2. 東日本大震災 子ども支援募金の進捗報告と今後の支援について
3. 2011年度4月から7月までの事業報告及び今後の日程（案）
4. その他

第26回評議員会

日 時 2012年1月14日（七） 15：15～17：30

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム（A会議室）

議 長 会長 松田 昌士

出席者	構成団体会員	50名
	維持会員	5名
	個人会員	19名
	賛助団体会員	2名
	青年代表	4名
	理事	1名
	ユネスコ国内委員	1名
	出席者計	82名
	委任状	26通

議 題

1. 第25回評議員会議事要録の承認
2. 東日本大震災子ども支援募金の進捗報告と今後の支援について
3. 2011年度8月から12月までの事業報告及び今後の日程について
4. 事業財務改善3ヵ年計画（案）について
5. その他

4. 各種委員会等（役職は就任当時。委員は五十音順）

（1）事業財務改善チーム

第1回会議

日時 2011年12月5日（月）12:00～14:00

場所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室

出席 会長 松田昌士

理事長 野口昇

専務理事 内田眞朗

理事 岡田茂、加藤玲子、小出寛治、鈴木佑司、高見裕一、二瓶和敏、
野田智義、松波孝之

- 議題
1. ユネスコ運動の使命について
 2. 新たなソーシャルビジネスの可能性
 3. 事業財務3カ年計画具体案の検討
 4. ユネスコ協会運営指針検討チームの検討課題と構成について

第2回会議

日時 2011年11月17日（木）13:00～18:00

場所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室

出席 理事長 野口昇

専務理事 内田眞朗

理事 岡田茂、加藤玲子、小出寛治、鈴木佑司、高見裕一、二瓶和敏、
野田智義

- 議題
1. 民間ユネスコ運動の使命について
 2. 事業予算の収支分析と評価に基づく事業の選択と集中について

第3回会議

日時 2011年12月5日（月）12:00～14:00

場所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室

出席 会長 松田昌士

理事長 野口昇

専務理事 内田眞朗

理事 岡田茂、加藤玲子、小出寛治、鈴木佑司、高見裕一、二瓶和敏、
松波孝之

- 議題
1. 新たなソーシャルビジネスの可能性
 2. 民間ユネスコ運動 改革への3つのアジェンダ
 3. 事業財務3カ年計画について
 4. ユネスコ協会運営指針検討チームについて

第4回会議

日時 2012年1月10日(火) 12:00~14:00

場所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室

出席 会長 松田昌士

理事長 野口昇

専務理事 内田眞朗

理事 岡田茂、加藤玲子、鈴木佑司、高見裕一、二瓶和敏、
野田智義、松波孝之

- 議題
1. 「事業財務改善3ヵ年計画」進捗報告
 - ①ユネスコ協会構成員へのアンケート送付
 - ②ブロック担当理事への説明
 - ③ユネスコ青年サミット報告
 2. 「ユネスコ協会運営指針検討チーム」への発展的構築について
 3. 1月14日 評議員会・理事会の進め方について
 4. 民間ユネスコ運動推進ビジョンについて
 5. 2012年事業計画(案)について
 6. 新しい魅力的なユネスコ運動について

(2) 「世界遺産年報2012」アドバイザーグループ

日時 2011年8月24日

場所 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟 会議室

出席 委員長 西村幸夫 (日ユ協連理事、東京大学先端科学技術研究センター教授・副学長)

委員 岡田保良 (国土舘大学教授、イラク古代文化研究所所長、ICOMOS 執行委員)

矢野和之 (株式会社文化財保存計画協会代表取締役)

吉田正人 (筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授)

米田久美子 (財団法人自然環境研究センター研究主幹)

委嘱事項 「世界遺産年報」出版に関わる専門的立場からの監修、助言

(3) 地域ユネスコ活動助成審査会

日時 2011年4月28日

出席 委員 野口昇 (日ユ協連理事長)

加藤玲子 (日ユ協連理事、日黒ユネスコ協会会長)

小出寛治 (日ユ協連理事、NTTファイナンス㈱相談役)

盛和春 (日ユ協連理事、㈱電通プロジェクト・プロデュース局シニア・プロデューサー)

委嘱事項 地域ユネスコ活動助成の申請事業について、申請書類をもとに助成交付の可否及び助成交付金額の決定

(4) 未来遺産委員会

日時 2011年12月19日

場所

委員長 西村幸夫 (日ユ協連理事、東京大学先端科学技術研究センター教授・副学長)

委員 秋田 実 (三菱商事株式会社 総務部環境・CSR推進部長)

秋道智彌 (総合地球環境学研究所副所長・教授)

内田眞朗 (日本ユネスコ協会連盟連専務理事・事務局長)

占谷堯彦 (大分合同新聞社 常務取締役営業部長)

佐野賢治 (神奈川大学日本常民文化研究所所長)

七野俊彦 (トヨタ自動車(株)レクサス国内営業部部長)

銭谷眞美 (東京国立博物館館長)

高見裕一 (日ユ協連理事、地球コーポレーション株式会社代表取締役)

土屋 誠 (琉球大学理学部海洋自然化学科教授)

永野浩介 (日本電信電話(株)総務部門部長)

西山 厚 (奈良国立博物館学芸部長)

西山徳明 (北海道大学観光学高等研究センター教授)

朴 恵淑 (三重大学人文学部教授)

福原義春 (社団法人企業メセナ協議会会長)

前田耕作 (文化遺産国際協力コンソーシアム客員研究員、アフガニスタン文化研究所所長)

原口 宰 (東日本旅客鉄道株式会社常務取締役営業部長)

宮廻正明 (東京藝術大学大学院美術研究科教授)

宮田繁幸 (東京文化財研究所無形文化遺産部部長)

毛利和雄 (日本放送協会NHK解説委員室解説委員)

矢野和之 (日本イコモス国内委員会事務局長)

鷲谷いづみ (東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

委嘱事項 「プロジェクト未来遺産」の選考、調査協力、広報協力